

週刊原油

世界の原油情報がここに凝縮されています。 毎週木曜日午後発行



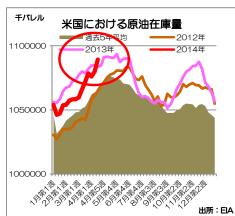


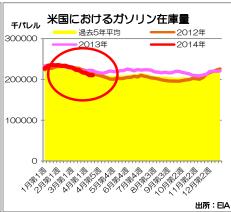
16日のNY原油I5月限は103.76ドル。16日のニューヨーク原油は反発。終値の前日比は期近2限月が0.01~0.03ドル高、 その他の限月は0.09~0.27ドル高。夜間取引ではウクライナ危機の拡大から、期近が3月3日以来の水準へ上昇するも、米 エネルギー情報局(EIA)統計での原油在庫の予想以上の急増などが嫌気され、上げ幅を大きく削った。5月限は、夜間取引 では一時、期近ベースで3月3日以来となる104.99ドルヘ上昇。中国の第1四半期経済成長率は前期比1.4%増と昨年第4四 半期の1.7%増から鈍化し、6四半期ぶりの低成長となったものの、ウクライナ東部の危機拡大に反応した。ウクライナ暫定 政府軍は東部の分離主義者らの掃討を開始し、クラマトルスク空港を奪還する一方、親ロシア派へのロシア軍の関与が指摘さ れるなど、ウクライナ・欧米とロシア間の緊張が一段と高まった。しかし、立会い開始後は様子見となるなか、米東部夏時間 午前10時30分に発表された米エネルギー情報局(EIA)統計で原油在庫が予想以上に急増したことを受け、一転して早めの 利益確定を進める動きに押されることとなった。受渡場所となるオクラホマ州クッシング原油在庫の減少も、ガソリン在庫が 予想されたほど減少しなかったこともあり、中盤には103.12ドルへ急落。その後は持ち直すものの、プラスサイドを回復し て引けたのがやっとだった。 ウィーン拠点のコンサルタント会社JBCエナジーは16日、リサーチメモで、OPEC(石油輸出 国機構) 加盟国の供給減少と夏の需要が原油価格を下支えるとの見方を示した。メモによると、「世界原油需給は6月から8 月にかけて、はっきりとした季節的なひっ迫となる見通し。この数カ月、製油所のメンテナンスにより原油相場は弱まった。 一方で、リビアの第2四半期の生産回復は限定的で、日量平均45万バレル程度となろう。イラクは4月に減産となった可能性 があり、サウジアラビアの3月の原油生産量は日量960万バレルと昨年夏の水準を50万バレル下回った」とのこと。(日本 先物情報ネットワーク)

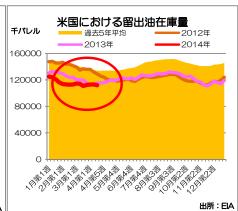
TOPICs 米国原油在庫939万パレル増、ガソリン・留出油在庫減少 by EIA

米国の石油在庫													
までの週	在庫量(千バレル)			前週比(千バレル)			前年同月比(%)			過去5年比(%)			
	原油在庫	ガソリン在庫	留出油在庫	原油	ガソリン	留出油	原油	ガソリン	留出油	原油	ガソリン	留出油	
2014年2月7日	1,057,321	233,098	113,063	+3,267	▲ 1,853	▲ 731	+0.3%	▲0.8%	▲0.6%	+1.3%	+1.3%	▲ 22.5%	
2014年2月14日	1,058,294	233,407	112,724	+973	+309	▲339	+0.1%	+0.1%	▲0.3%	+1.2%	+1.4%	▲ 21.7%	
2014年2月21日	1,058,362	230,600	113,062	+68	▲2,807	+338	+0.0%	▲ 1.2%	+0.3%	+1.0%	+0.8%	▲20.9%	
2014年2月28日	1,059,791	228,996									+0.4%	▲ 19.1%	
2014年3月7日	1,065,971	223,766									▲ 1.0%	▲ 18.5%	
2014年3月14日	1,071,821	222,299	110,846	+5,850	▲ 1,467	▲3,097	+0.5%	▲0.7%	▲2.7%	+1.8%	▲0.9%	▲20.4%	
2014年3月21日	1,078,440	217,198	112,401	+6,619	▲ 5,101	+1,555	+0.6%	▲ 2.3%	+1.4%	+2.1%	▲2.1%	▲ 18.6%	
2014年3月28日	1,076,061	215,624					▲0.2%	▲0.7%	+0.5%	+1.3%	▲2.4%	▲ 17.9%	
2014年4月4日	1,079,851	210,436							+0.2%	+1.5%	▲3.3%	▲ 16.2%	
2014年4月11日	1,089,241	210,282	111,916	+9,390	▲ 154	▲ 1,278	+0.9%	▲0.1%	▲ 1.1%	+2.2%	▲ 2.3%	▲ 16.5%	



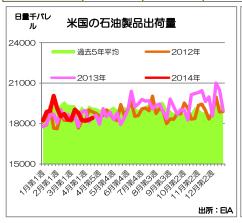


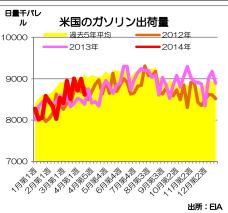


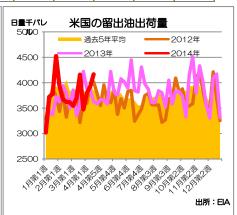


TOPICs 米石油製品出荷量ガソリンは前年同月比+14.9%増・過去5年比▲5.4%少ない水準

石油製品出荷量												
までの週	出荷量(日量千バレル)			前週	前年同月比(%)			過去5年比(%)				
	石油製品	ガソリン	留出油	石油製品	ガソリン	留出油	石油製品	ガソリン	留出油	石油製品	ガソリン	留出油
2月7日	18,541	8,325	3,675	▲ 569	▲ 127	▲265	▲2.7%	▲0.9%	▲ 6.8%	▲ 4.5%	▲ 4.3%	▲ 5.8%
2月14日	18,709	8,030	3,623	+168	▲295	▲ 52	+1.6%	▲ 4.8%	▲ 4.9%	▲ 4.9%	▲8.7%	▲ 10.6%
2月21日	18,283	8,535	3,617	▲ 426	+505	▲ 6	▲2.1%	▲0.7%	+3.3%	▲ 5.8%	▲ 4.3%	▲ 5.9%
2月28日	18,291	8,411	3,546	+8	▲ 124	▲ 71	▲0.0%	+0.6%	▲8.1%	▲ 5.6%	▲ 5.7%	▲ 7.4%
3月7日	19,027	8,949	3,697	+736	+538	+151	+2.3%	+3.7%	+10.4%	▲ 1.8%	+0.1%	▲ 5.1%
3月14日	18,783	8,512	4,159	▲ 244	▲437	+462	+5.7%	+2.3%	+16.2%	▲0.7%	▲3.5%	+9.7%
3月21日	18,257	9,002	3,476	▲ 526	+490	▲ 683	▲3.3%	+7.2%	▲ 17.7%	▲ 5.4%	▲0.2%	▲10.1%
3月28日	18,199	8,713	3,795	▲ 58	▲ 289	+319	▲ 4.0%	+2.2%	▲2.2%	▲ 4.0%	▲3.5%	+1.1%
4月4日	18,289	8,996	3,927	+90	+283	+132	+0.9%	+6.1%	+1.9%	▲5.5%	+0.1%	▲0.7%
4月11日	18,412	8,616	4,165	+123	▲ 380	+238	▲0.3%	+2.8%	+14.9%	▲ 4.1%	▲ 5.4%	+8.3%







TOPICs 2013年の米国原油確認埋蔵量は1976年以来最大水準に達している。

4月10日に米エネルギー情報局から公表された2012年の米国の原油・天然ガス確認埋蔵量の調査レポートによれば、2012年の米国の原油確認埋蔵量は4年連続で増加し、+45億バレル増、+15%増の330億バレルとなった。2012年の原油確認埋蔵量は1976年以来最大となり、年間の増加量は1970年アラスカで発見された油田により前年比+100億バレル増となって以来最も大きなものとなった。この原油確認埋蔵量には液体炭化水素の開発も含まれ、タイトオイル油田での技術革新や歴史的に高い水準にある原油価格が貢献した。



確認埋蔵量とは

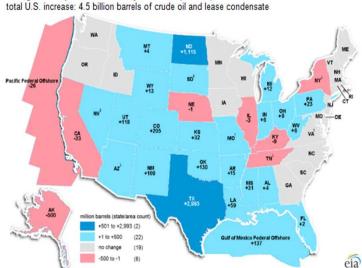
確認埋蔵量とは、地学的に存在し、開発可能なものを言い、現状の経済環境と操業条件で将来も採掘可能なものを言う。タイトオイル油田では、進歩した掘削技術により伝統的な低い浸透率の原油も含まれる。2012年の原油とリースコンデンセートのうち73億バレル、全体の約22%が該当する。

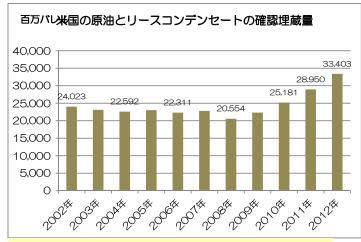
テキサス州が最大となった

テキサス州は単独州としては最も大きな原油埋蔵量が確認され、30億バレルに及ぶ。ここではPermianとWestern Gulf油田がある。ノースダコタ州は、11億バレルと二番目に大きい増加量を誇り、西部のBakken及びThree Fork油田による。

2011年から12年にかけて確認埋蔵量が多くなった地域 (青色の濃いところは5億~29億93百万バレル増、水色は百

Changes in oil proved reserves by state/area (2011-12)







天然ガスの確認埋蔵量は減少

2012年の米国の天然ガスの確認埋蔵量は▲26兆立方フィート▲7.5%減少した。天然ガス価格が12カ月で34%下落したことや2011年と2012年のヘンリーハブ渡天然ガス平均価格が新規油田開発を抑え、▲456兆立方フィートに及び、既存油田の増加によっても追いつかなかった。テキサス州南西部のEagle Fordの原油確認埋蔵量は。ノースダコタ州北部のBakken油田の確認埋蔵量を超え、米国で最も大きいタイトオイル油田となった。ペンシルバニア州のMarcellusシェールガス油田と西バージニア州の天然ガスはテキサス州のBarnett油田を凌駕して最大のシェールガス油田となった。

ペンシルバニア州のMarcellusシェールガス油田と西バージニア州の天然ガスはテキサス州のBarnett油田を凌駕して最大のシェールガス油田となった。 天然ガス埋蔵量は、2013年には天然ガス価格の改善に伴い、増加するとEIAは予測している。

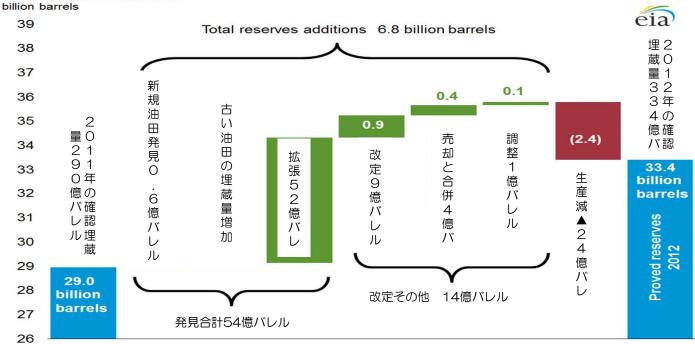
米国の原油生産量は2012年+16%増、天然ガス生産量は+6%増

米国のリースコンデンセートを含めた原油生産量は、2012年16%増加し、天然ガスは確認埋蔵量は減少したが、生産量は6%増加した。



2012年の米国の原油とリースコンデンセート確認埋蔵量変化(単位:十億バレ

Figure 9. U.S. crude oil and lease condensate proved reserves changes, 2012 crude oil and lease condensate



Note: Component columns may not add to total due to independent rounding. Y-axis does not start at zero Source: U.S. Energy Information Administration, Form EIA-23L, "Annual Survey of Domestic Oil and Gas Reserves."

今後の予想

原油価格にとって米国の動静は重要なファクターである。2012年の米国の原油確認埋蔵量は15%増加して330億バレルとなった。昨年のBPレポートでは350億バレルで世界第10位となっている。BPレポートによると一位はベネズエラの2976億バレル、二位はサウジアラビアの2659億バレル、次いで、カナダの1739億バレル、カナダオイルサンドが1678億バレル、イラン、イラク、クウェイト、UAE,ロシア、リビア、ナイジェリアと続いて、米国である。

天然ガスは、BPレポートではイラン、ロシア、カタール、トルクメニスタンに次いで米国となっており、世界第5位であった。6位のサウジアラビアとの差は2700億立方フィートなので、2012年▲2600億立方フィート減少であれば、6位転落かもしれない。ほとんどの国の確認埋蔵量は、生産量以上に発見されて毎年確認埋蔵量は増加している。米国の天然ガスは消費の方が新規発見よりも多かったということであろう。

原油価格はウクライナ情勢を受けて上昇しているが、ファンドの建玉も多く、どちらかといえば今後下落する可能性の方が高いと思われる。

掲載される情報は株式会社コモディティー インテリジェンス (以下「COMMi」という) が信頼できると判断した情報源をもとにCOMMiが作成・表示 したものですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性について、COMMiは保証を行なっておらず、また、いかなる責任を持つものでもありません。 本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はCOMMiに帰属し、事前にCOMMiへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。

COMMiが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本資料に掲載される株式、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

本資料は、投資された資金がその価値を維持または増大を補償するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客様に何らかの障害が発生した 場合でも、COMMiは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

COMMiおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願いします。

発行元:

COMMODITY

株式会社コモディティー インテリジェンス4東京都中央区日本橋蛎殼町1

丁目11-3-310

会社電話: 03-3667-6130 会社ファックス 03-3667-3692